座る、移動する日常生活にやさしい自立と介護を。

車いすの種類

自走式車いす

ご利用者自身が操作できる後輪が大きく、ハンドリムが付いた車いす。



介助式車いす

介助者が押して移動し、後輪が小さく小回りがきき軽量な車いす。



リクライニング・ティルト機能

車いす自体に姿勢を変える機能を持たせ、姿勢の保持をしやすくする車いす。

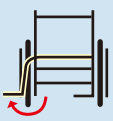


電動車いす

わずかな力で操作ができ長距離の移動に便利な車いす。電気の力で動くため操作の確認が必要になります。



車いすの便利な機能



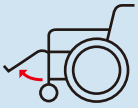
スイングアウト
フットサポートが外せ移乗に便利。



肘かけ
肘かけが外せたり、はね上げられたり、車いすの横からの移乗に便利。



背張り
背シートのはり調節により背中の圧迫を軽減。



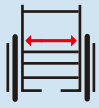
エレベーティング
脚部の上下角度を自由に変更できる。



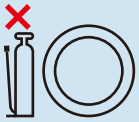
リクライニング
車いすの背もたれの角度が調節できます。



ティルト
背角度をそのままで座面角度を変えることができ姿勢保持をしやすくします。



座 幅
座シートの幅。



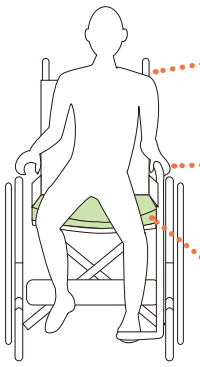
ノーパンクタイヤ
パンクの心配がなく、空気入れも必要ないタイヤです。

車いすに座ってのチェックポイント

機種が決まったら、実際に座ってみてください。座った時は良くても、操作したり、長い時間座っていると姿勢がくずれてくることがあります。車いすが使用される方の体に合っているかどうか、実際に使用する条件に即して判断することが大切です。

●体が横に倒れる

体のバランスが悪い場合に起こります。姿勢を安定させようとして肘かけをしっかり握るため、手を自由に使うことができません。



背もたれの形状が合わない
体を側方から支える姿勢保持用バックレストにします。

肘かけの高さが低い
肘かけの高さ調整機能付の車いすにします。

座シートが弛んでいると体が傾きやすい
座面が水平になる座クッションを使用します。



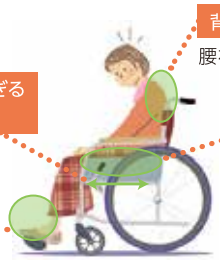
●お尻が前方にずり落ちる

いわゆる「ずっこけ姿勢」のことで、ふだん体重の乗らないところに圧力がかかるため、お尻が痛くなります。

座り方が悪く、浅く座っている
良い姿勢で座るための乗り移り方法を考えます。

座シートの奥行きが長すぎるため、浅く座ってしまう
体に合った座シート長の車いすにします。

フットレストの高さが合っていない
フットレストの高さを合わせます。



背もたれの形状が合わない
腰を支える背クッションにします。

たわんだ座シートは、お尻が前に滑りやすい
肘かけの高さ調整機能付の車いすにします。
または、お尻の形状に合った座クッションを使用します。